

科目名	歴史学							学期	前期
副題	「慈円と『愚管抄』」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M2-12-058	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

## 授業の目的と概要

鎌倉時代の天台座主・慈円（1155～1225）が著した『愚管抄』は、日本の中世を代表する歴史書として知られている。本講義では、院政期から鎌倉期に至る政治過程を見据えつつ、慈円の生涯と『愚管抄』の成立をめぐる諸問題について考察する。あわせて、慈円の著作の読解を通して、その歴史叙述・歴史思想の意義にも論及したい。なお、「授業計画」に示す内容は、進度その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

## 授業の到達目標

①院政期から鎌倉前期にかけての政治過程と、慈円との関係を理解できるようになる。②『愚管抄』を通して、承久の乱の歴史的意義を考える視座をつちかう。③慈円の願文類・消息の持つ史料的价值について、学問的に理解できるようになる。

## 授業計画

1. 幼少期・青年期の慈円とその修行
2. 慈円と治承・寿永の内乱
3. 九条兼実・慈円と源頼朝
4. 九条家の沈淪と慈円
5. 後鳥羽院と慈円
6. 慈円と聖徳太子信仰
7. 慈円と日吉信仰
8. 三寅の開東下向と慈円—『道理』の執筆をめぐる—
9. 『愚管抄』の執筆と承久の乱
10. 慈円の晩年
11. 死後の慈円
12. 『愚管抄』の特徴と意義
13. 『愚管抄』における聞き取り
14. 『愚管抄』を読む①—合戦記事に見る迫真性その1—
15. 『愚管抄』を読む②—合戦記事に見る迫真性その2—

## 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、中世史や史学史に関係する専門用語の意味を理解しておくこと（100分） 講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること（80分）

## テキスト

プリントを配布し、これにもとづいて講義を進める。

## 参考書・参考資料等

多賀宗隼『慈円』（吉川弘文館、1959年） 多賀宗隼『慈円の研究』（吉川弘文館、1980年） 大隅和雄『愚管抄を読む』（講談社、1999年） 大隅和雄『愚管抄 全現代語訳』（講談社、2012年） 坂口太郎『『愚管抄』成立の歴史的前提』（元木泰雄編『日本中世の政治と制度』吉川弘文館、2020年）

## 学生に対する評価

レポート（100%） ※4000字以上

## ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 慈円と『愚管抄』に関する基礎的事項を理解している。
- (B) 慈円と『愚管抄』について、講義の内容を踏まえて具体的に説明できる。
- (A) 慈円と『愚管抄』について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
- (S) 本講義の内容を踏まえて、慈円と『愚管抄』について、実証的な見地から学問的な指摘を行なうことができる。

## 課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、採点後に講評する。

## その他

本講義は、歴史学の研究成果を踏まえた内容を扱うため、水準は非常に高い。講義の趣旨を理解し、くれぐれも生半可な態度で受講しないこと。基本的に講義形式を取るが、一部の回は『愚管抄』の読解と、それにもとづく議論も行なうアクティブ・ラーニングであるので、受講生の積極的参加が必要である。